

帆檣成林

—はんしょうせいりん—

新潟市歴史博物館
博物館ニュース
vol.39

「帆檣成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

CONTENTS

特集1	まちあるきのすすめ	P.2~3
特集2	平成二十八年度企画展 近世黎明—堀直寄と新潟—	P.4
歴史さんぽ	信濃川の旧左岸	P.5
おすすめの一冊	「近代日本学校制服図録」	P.5
特集3	旧小澤家住宅の事業について	P.6
館長日記	お酒ですか、ご飯ですか	P.7
収蔵資料紹介	枝葉をかき集める道具	P.7
博物館 あちらこちら	マテバシイ	P.8



新潟市歴史博物館
博物館ニュース

帆檣成林

Vol.39

【たいけんのひろばプログラム】

楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申込み・対象・参加費
1月14日± 14:00~15:00	新聞紙で凧づくり	身近なものから簡単に、お正月ならではの凧をつくります。	要申込み 1/12まで・定員なし・無料
1月15日 14:00~15:30	こども歴史クラブ⑨ 「身近なもので絵の具を作ろう」	野菜など身近なものから絵の具を作って描きます。絵の具はどのようなものなのかを体験します。	こども歴史クラブの部員が対象です。
1月21日± 10:00~12:00	みなとびあワラ部	ワラゾウリの自主練習をします。初心者の方もどうぞ。	ワラ部部員が対象です。
1月22日 13:30~15:00	布を織ってみよう	お菓子の空き箱を使った織り機で裂き織りのコースターを作ります。	申込み不要・小学生以上 当日先着15人・無料
1月28日± 14:00~15:30	みなとびあもめん部	博物館資料を使いながら、布生産にまつわる手仕事を体験する試みです。	大人向けの活動です。部員が対象です。
1月29日 14:00~15:30	わらの小物とコースターづくり	わら編みの原理を使って、ワラでコースターを作ります。わらを使ったとんぼの飾りも作ります。	申込み不要・定員なし・無料

お申込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。

現在開催中の企画展

「近世黎明—堀直寄と新潟—」展

2016年は堀直寄が新潟町を領地とした年から400年に当たります。町が発展し確立した時代である江戸初期の新潟について、堀直寄の生涯を軸に考えます。

会期 2016年12月10日(土)~2017年1月29日(日)
会期中展示替えあり

休館日 毎週月曜日(1/9は開館)・12/27(火)~1/3(火)・1/10(火)

観覧料 大人600円[480円]/大学生・高校生400円[320円]/中学生・小学生200円[160円]

*中学生・小学生は、土・日・祝日の観覧料が無料です。

*[]は団体料金(20人以上)

*企画展観覧料で常設展示もご覧いただけます。

主催 新潟市歴史博物館

関連事業

記念講演会「堀直寄とその生涯」

講師：佐藤賢次氏(加茂市史編さん委員)

日時：1月28日(土)13:30~15:00

会場：2階セミナー室

定員：80人

参加費：100円

申込み：1月13日(金)まで。「記念講演会参加申込み」

およびお名前、ご連絡先をEメールまたは往復

はがきでお送りください。

博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについて、毎月第4日曜日にお話します。

【時間】 13:30~15:00

【会場】 本館2階セミナー室

【申込】 不要(当日受付・定員80人程度)

【資料代】 100円(資料のない回は無料)

◆1月の講座:1月22日(日)

講師：伊東 祐之

「新潟税関備船「新潟丸」」

◆2月の講座:2月26日(日)

講師：若崎 敦朗

「新潟奉行所草創期の運営

—諸役人の役料・御手当について—」

博物館 あちらこちら

マテバシイ

旧税関の南側の庭園に大きなマテバシイの木がこんもりと立っています。マテバシイはこの庭園の中にほかにもあります。常緑の葉を繁らせ、秋には細長いドングリをたくさん実らせます。マテバシイのドングリはアクが少なく、簡単に食べることができます。みなとびあでは、体験プログラムでこの実を使ってクッキーを作っています。秋の定番プログラムです。



■ 帆檣成林「はんしょうせいりん」vol.39号
■ 編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
■ 印刷／株式会社ウツサツ



旧小澤家住宅(仮)の六文化形跡)より、
ザンオンホール(スーパースタイルの演習と
Bar Book Box の「歴史文化」BAR)

次回企画展

収蔵品展

「絵葉書でめぐる日本の名所」 ・新収蔵品展

収蔵品展では、明治後期から昭和初期に発行された絵葉書を展示します。ぜひ絵葉書を通して各地の名所を楽しんでいただきたいと思います。新収蔵品展では、今年度新たに収集した資料を紹介いたします。

【会期】 2017年2月11日(土)~2017年3月26日(日)

【休館日】 毎週月曜日(3/20は開館)・2/14(火)・3/21(火)

【観覧料】 無料

*常設展の観覧は有料です

【主催】 新潟市歴史博物館



お知らせ

■ 施設整備のため休館いたします

1月30日(月)~2月6日(月)

編集後記

39号では、みなとびあと一体管理となっている旧小澤家住宅についてご紹介しました。みなとびあから旧小澤家住宅へは、2014年に整備された早川堀通りをたどって徒歩15分程で行くことができます。ここはかつて新潟町にめぐらされていた堀の一つでした。ぜひ、みなとびあから旧小澤家住宅へ、まちあるき気分でご訪ねみてください。(中村)

■ お問い合わせ・申込みは博物館まで…

新潟市歴史博物館 みなとびあ

住所：〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10

Tel：025-225-6111 Fax：025-225-6130

E-mail：museum@nchm.jp http://www.nchm.jp

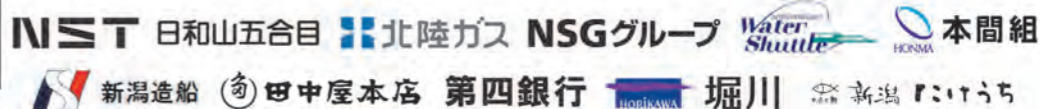
【休館日】 毎週月曜日、祝日の翌日・年末年始(12/28~1/3)

【開館時間】 (4-9月)9:30~18:00 / (10-3月)9:30~17:00



みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、まもなく開港150周年を迎える新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。



まちあるきのすすめ

小林 隆幸

七月に放送されたNHKの「プラタモリ」新潟は「砂の町」の影響は大きく、「プラタモリ」のような街歩きをしてみたいか、「この番組で地域の歴史に興味を持った。新潟の身近な歴史の話をしてもらえないか」などの要望や意見を多くいただくようになりました。

何気ない身近な街の風景が、意識することで普段とは違う価値のあるものに見えてきます。その土地の成り立ちや人々の営みの痕跡がその街のどこどこに見え隠れし、それを発見した時に知的好奇心が満たされ、その街への興味がさらに湧いてきます。そして面白いと感じます。

「プラタモリ」の番組は国民的タレントのタモリさんのキャラクターと練り上げられた演出によって、茶の間でのんびり目と耳を使ってまちあるきが楽しめます。実際には「プラタモリ」のような手の込んだまちあるきはできないまでも、茶の間を離れて街を訪ね歩くと、さらに五感を使った楽しみ方に発展します。

新潟市内で盛んになったまちあるき

近年、新潟市内でもまちあるきが盛

んです。特に平成二十年に新潟シティガイドが設立されてからは、まちあるきは市内観光の目玉になっています。シティガイドのスタッフは「みなとまち新潟観光ボランティアガイド養成講座」の受講者が中心で、六〇名ほどが登録されています。普段から地域の歴史や文化に興味を持ち、学習を進めている方たちです。ガイドでは新潟市中央区の新潟島エリアや沼垂地区にコースを設定し、地域の魅力を伝えています。

新潟シティガイドの活躍もあり、中央区では「えんてい」(新潟弁で「歩いて行こう」という意味のこと)という名のまちあるきも行っていきます。今年九月十月にかけて実施された「えんてい」では、区内に一五コースが設定され、土曜日ごとに二コース程度が振り分けられていました。それぞれのコースに工夫が凝らされ、バラエティ豊かな内容になっていました。案内役は新潟シティガイドの皆さんです。こうして新潟シティガイドの活躍の場は広がり、市の街なか観光も活気づいてきています。

新潟シティガイド設立前のまちあるきを思い出してみると、「にいがた寺町からの会」の寺町巡りが思い出されます。同会は蒲原霊秀氏を代表に平成

十四年に設立され、同年には会の野内隆裕さんの手による「寺」まちあるき地図が発行されています。会ではまちあるきを「〇〇さんぽ」と称していたのが印象的でした。

この時に寺町巡りのガイドとして活躍していたのがマップの製作者でもある野内隆裕さんです。この野内さんこそ「プラタモリ」に登場した新潟の案内人です。路地連新潟の代表も務め、今では「まちあるきの達人」と称せられています。新潟のまちあるきが盛んになった基礎に野内さんの活躍があります。野内さんは今も盛んにガイドをされている一方、ガイド研修会の講師もされています。

そして、野内さんが新潟市と一緒になって製作したのが「小路めぐりマップ」です。現在六種類が発行されています。まちあるき用に編集され、イラストや写真が多用された見て楽しいマップで、グッドデザイン賞に輝いたものもあります。すでに配布が終了しているものもありますが、新潟市のホームページからダウンロードできます。これがあればガイド無しでもまちあるきが楽しめることでしょう。

また、まちあるきを企画したい方には

して平成十九年度から始め、これまで一四回実施しています。館の性格上、歴史に触れる内容のものが基本で、これまでの内訳は次の通りです。

- 平成19年度「閑屋まちあるき」
- 平成20年度「新川を歩く」
- 平成21年度「大畑をあるく」
- 平成22年度「八〇年前の地図を片手に女池の村道を歩く」・「島から砂丘を登るー広がるシモー」
- 平成23年度「梨島ー信濃川と他門川に囲まれた島」・「流作場をめぐるー古い地図を見ながら歩いて昔の情景を偲ぶ」
- 平成24年度「流作場をめぐるIIー古い地図を見ながら歩いて昔の情景を偲ぶ」・「山の下一港と工場の町の面影」
- 平成25年度「白山公園まわり」・「思い出の古町 未知の古町」
- 平成26年度「野外彫刻をめぐるー白山公園周辺」
- 平成27年度「豊栄葛塚まちあるき」
- 平成28年度「上・下大川前めぐりー近世の新潟町を訪ねて」

このようにみなとびあのまちあるきは、旧新潟市域を中心としながらも対象地はバラバラです。どの地域でもそれぞれの土地には歴史があり、見どころとなる資源はすぐに見つかります。新潟市内だけでも歩くコースは無数に存在すると考えていいでしょう。ただ当館のまちあるきのように団体で行動するような場合は、各個人の体力の差や団体行動の効率性などを考慮する必要



みなとびあ「上・下大川前めぐり」で江戸時代の新潟町跡を資料で確認する(2016年)

があるため、コース設定には制約が生じます。まず現地集合・解散を基本としていることから、公共交通機関で行けることが条件になります。それに、疲労の原因にもなるため単調な長い道が続かないこと、途中にトイレなどの休憩場所が数か所確保できることなどが加わります。そうした条件を踏まえながらコースを考え、それに応じた資料作りをしています。

資料とは参加者への配布資料のことです。みなとびあの場合、館の利を活かし配布資料を充実させています。過去に実施したもののタイトルに「古い地図」などの用語が見られるように、配布資料には館が所蔵する古地図や古写真などが数多く添付され、これによって過去と現在の状況が比較できるようになっています。ただこうした資料を準備したまちあるきも一回限りの開催で終了となるため、この実績を以後も活かさないものかと考えてしまいます。

まちあるきの楽しみ方

お気づきのように「プラタモリ」の面白さは地形を重視しているところにあります。「新潟は「砂のまち」もそうでした。その視点を入れるとまちあるきは断然楽しくなります。たとえば、みなとびあの敷地を見ると、旧税関庁舎と博物館本館が建つ地面の高さに二メートルほどの差があります。なぜこの差ができたのかを考えると、新潟の街の特色や歴史が見えてきます。

また、まちあるきの楽しみ方には大きく分けて二通りあります。「プラタモリ」を例にすると、案内されるタモリさんの楽しい楽しみ方と、案内する野内さんの楽しさという楽しみ方を指しているのはありません。まちあるきを企画または開拓していくということ

新潟シティガイドに限らず、新潟市内では江南区の沢海や秋葉区でもガイドによるまちあるきを始めているようですし、全国各地でもガイドによる案内は盛んです。タモリさんの楽しみたい方には、こうしたまちあるきに参加することをすすめます。一方、野内さんの楽しみたい方は、自らまちあるきを作っていくことになります。今はウェブ上で簡単にマップが検索できるようなったので、あらかじめ地図でコースを決め、大まかにでも事前に調べてから現地を訪ね、現地で興味を持つポイントがあれば、さらに調べてみる

「まちあるきスタイルブック」が参考になります。その視点やノウハウが紹介されています。二〇一四年に特定非営利活動法人まちづくり学校から発行されました。①



「小路めぐり」マップと「寺まちあるき地図」

みなとびあのまちあるき

ところで、みなとびあでもまちあるきを行っていることをご存知でしょうか。ただし当館の場合、館のファンクラブ会員を対象としているため、会員以外へは周知されません。会員の特典事業と

いう作業をしてみたいかがでしよう。これは、みなとびあでもまちあるきを企画する場合の基本の作業です。この成果には自分のオリジナル性を出すことができ、単純な歴史や地理の学習では得られない喜びがあります。

まずは、興味を持って、まちを歩いてみましょう。思わぬ発見があり、「ポケモンGO」に負けない面白さを感じられるはず。脳も心も満たされ、普段の運動不足の解消にも役立つまちあるきを、趣味の一つに加えてみてはいかがでしょうか。

(こばやし たかゆき 学芸員)



福井県小浜市の町並みをめぐるガイドツアー(2016年)



熊本城を案内するボランティアガイド(2016年)

日本史を時代で区切る時、「近世」という区切り方を用いることがあります。一般的には安土桃山時代から江戸時代までを指します。

近世はじめに新潟を領地とした大名に、堀直寄という人物がいました。直寄が新潟を領地とした元和二(一六二六)年から今年で四〇〇年になります。この機会に堀直寄が生きた近世はじめの新潟地域の様子を取り返し、ご紹介する展示を「近世黎明」展と題して開催します。

■越後近世の幕開け

越後の近世は大きな変化から幕を開けました。慶長三二(一五九八)年、上杉景勝が会津に移され、代わって堀秀治が越後を拝領しました。堀家は越後に上方(かみ)がたの新たな文化などをもたらしました。例えば石垣や瓦ぶきといった福島城の遺構、遺物や蒔絵に彩られた「神饌箱」は堀家の繁栄を物語る史料です。

一方、上杉景勝に従って会津に移る武士や農民が多くなりました。また上杉家の越後復帰を望む勢力も残り、慶長五(一六〇〇)年に「越後遺民一揆」が起こりました。これらによって越後の人口は減少し、農村の荒廃が進みました。

若い当主堀秀治の下で堀家をまとめ、のが家老堀直政でした。直政は家臣団の団結と越後の復興に努めました

が、その一翼を担ったのが直政の息子の直寄でした。直政の死後、直寄はその職務を引き継ぎ、政治の経験を積んでいくことになりました。

■堀直寄と越後江戸初期における村々

慶長十五(一六一〇)年、堀秀治の子、忠俊が改易となり、堀直寄は独立して信濃飯山四万石の大名となります。直寄は元和二年に越後長岡八万石を拝領し、越後に戻ってきました。

直寄が越後に戻った時、農村の復興は進んでいたものの、新田開発が各地で盛んとなり、人手不足が深刻化して大名間で農民の誘致合戦が行われたほどでした。直寄も農民を集めるため工夫をします。例えば、今回展示している蒲原郡福井村(新潟市西蒲区)宛ての法度は、年貢を減免したり、年貢納入の手続きを明確にしたりして、農民に直寄の領地に来てもらうことを狙ったものです。また、直寄は湊町新潟に着目しました。

直寄は新潟の町を拡張するとともに、入港税など九項目の税を免除して町の発展を図りました。直寄が新潟を領地としたのは約二年間に過ぎませんでしたが、後に直寄は沼垂に蔵を置き、上方や蝦夷地などと交易を実現しており、新潟の整備は全国との交易を視野に入れたものだったのではないのでしょうか。

■新潟湊と堀直寄家のその後

堀直寄は元和四年に村上を拝領し、長岡や新潟は牧野家の領地となりました。直寄は新発田藩領の沼垂に蔵屋敷を設けて新たな交易の拠点としました。沼垂の蔵屋敷は直寄の孫、直定が没して堀直寄家が断絶するまで続きました。

牧野家の領地となった新潟町は川の変流といった環境の変化に対応しつつ、商人の努力によって次第に発展していき、越後でも有力な湊町となりました。新潟町では、直寄から受け取った古文書は大切に受け継がれ、例えば新潟町と沼垂町の間の「元禄の訴訟」では裁判の証拠としても使われました。近世初期の記憶や記録は、江戸時代には町民や農民の権利を守るものとして伝えられていったのです。そうした記憶や記録は、今日では権利の証拠としての役割を終えましたが、新たな文化を創造するために用いられ始めています。

■展示会期後半の見どころ

十二月から始まった展示も、十一月十一日から後半に入り、展示品の入れ替えがあります。

後半の展示の目玉は「直江状」です。直江状は、上杉景勝の重臣直江兼続が徳川家康からの糾問に答えるため慶長五年に書いたとされる書状です。この中

で直江兼続は、上杉家に不穏な動きありと家康に対して報告した堀直政を厳しく批判し、直政の主君である堀秀治を倒すのは簡単と手厳しく一蹴しています。直江状について堀家の視点から語られることは少なく、堀家がなぜ徳川家へ接近したかなど不明な点が多くあります。堀家の立場から直江状を読むと新たな発見があるかもしれません。

直寄関係のものでは「鉄団影」、「鉄団号」があります。「鉄団影」は寛永九年に直寄が墨書した黒円で、自分の姿を描いたものとされます。また直寄と交流のあった京都大徳寺の僧沢庵が賛を寄せています。「鉄団号」は沢庵が「鉄団」の文字を書いたもので、「鉄団影」と対になるものです。ともに直寄の晩年の境地が表された作品で、沢庵の賛によれば、黒く塗られた円は、本来人間が備えている仏性が円満で欠けることとなく、また煩惱などに影響されない清浄な姿であるといえます。

後半も見ごたえのある資料が展示されますので、是非お越しください。
※ 「鉄団影」の解釈には関谷正中「直奇公をめぐるとの二話」「郷土村松」六四号、二〇〇七年)を参考にしました。
(たじま ゆうすけ 学芸員)

歴史さんぽ



信濃川の旧左岸

新潟市中央区一番堀通町白山公園周辺



絵葉書「新潟信濃川より県会議事堂を望む」 当館蔵



県会議事堂(現県政記念館)裏 2016年撮影

白山公園は、散策を楽しむ人々も多い憩いの場です。明治時代に、白山神社境内地が公園として整備され、現在はいちとびあ周辺をふくむ7ヘクタールの一角が白山公園となっています。

ところで、拡張前の公園の南側から県政記念館の裏が、むかしは信濃川のほとりだったことをご存知でしょうか。

江戸時代、白山神社は信濃川や弥彦山、角田山、越後山脈を望むことができる風光明媚な場所として知られていました。境内の川縁には堤防があり、明治時代には公園の堤外地に、みどり亭、延寿亭という料理屋が、川に張り出すようにして建てられました。明治14(1881)年には、白山公園蓮池と堤防の間に、公衆会合所「借楽館」が完成しました。川や山々を眺めながら、食事を楽しむことができたのでしょうか。

明治16年3月には、県会議事堂(現県政記念館)が建設されました。

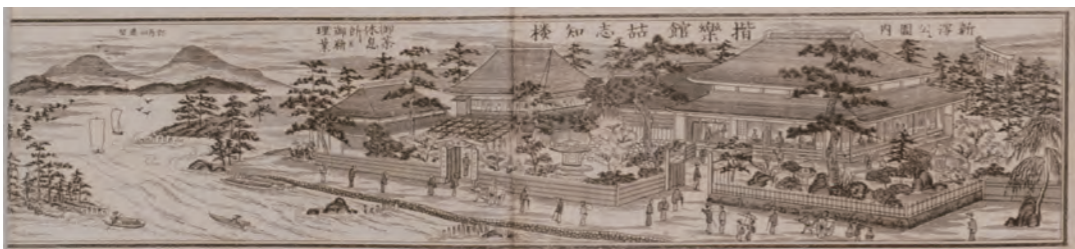
大正11(1922)年、大河津分水が通水すると、信濃

川の水量が調節できるようになり、川岸の埋め立てが開始されました。昭和9(1934)年から白山公園地先の埋め立てに着工し、後に埋め立て地に陸上競技場、野球場等を配備した総合運動場、市公会堂が建設されました。

掲載した絵葉書は、埋め立てが始まる前の県会議事堂裏を撮影したものです。

白山公園の借楽館の跡地には、斎藤喜十郎邸の一部が移築され、平成9年に燕喜館として開館しました。現在、神社から信濃川左岸へは、空中回廊によって散策できるようになっています。天気の良い日には、白山公園を歩いて、景観の移ろいを想像してみてください。

渡邊 久美子(わたなべ くみこ 学芸員)



「新潟公園内 借楽館古志知楼」「北越商工便覧」 明治23年 当館蔵 画面右の建物が借楽館。左に弥彦山、角田山。

おすすめの1冊

近代日本学校制服
図録

本書は学校制服と、それをとりまく文化について、明治期から昭和戦前期を対象に、男子・女子・小学生の三部で構成し、豊富な図版を用いて紹介しています。

制服といえは、軍服や官吏の礼服など職業服もあります。しかし職業服と異なり、学校制服が普及し、文化として社会に受容されたことについて、筆者はその最たる理由に、生徒側が自費で制服を準備したことを挙げています。それゆえ制服の規則を作る学校側に対して、生徒側も影響力を持つことができたというのです。また、学校制服は着用者の学生という身分を外部に知らしめるとともに、襟章や袴章など、徽章によって所属が表示されます。小さな違いではありますが、着用する生徒にとつては大問題で、所属への誇りとなり、自身の行動を律する要因となったことなども写真と共に紹介されています。

学校制服の歴史的な背景がわかるとともに、たくさんのお図版を見比べる楽しさがある一冊です。

(藍野 かおり 学芸員)



難波知子 著
創元社
2016年8月

旧小澤家住宅の事業について

若崎 敦朗

旧小澤家住宅は、平成十四年に小澤辰男夫妻より土地・建物が寄贈され、その後の整備を経て、平成二十三年に開館した施設です。現在は、新潟市歴史博物館と一体で財団が管理運営を担っています。私は昨年七月まで旧小澤家住宅の学芸員として勤務していました。

旧小澤家住宅では、条例の設置目的に基づき、多彩な事業を展開しています。事業を行う上で、職員で共有し大事にしてきたことは、建物や庭など旧小澤家住宅が有する魅力を可能な限り活かし、且つ職員自らも事業を楽しんで取り組もうというものです。こうした姿勢での取り組みによって、多くの方々に訪れていただき、二〇回以上も来館して下さるリピーターも生まれています。少しずつですが認知も高まる中で、旧小澤家住宅の魅力を多くの方に感じていただけたのではないかと思います。

ところで、旧小澤家住宅の事業は、学芸員だけでなく全職員で、ときには当館のボランティアさんや地域の方々も加わって、アイデアを出し合い、協力しながら進める体制になっています。先日開催された「旧小澤家住宅文化祭」も、事務系の職員と臨時職員、ボランティアさんが一緒になって計画し実現したものです。他にも、他施設の職員や地域の方との会

話から生まれた事業もあります。「旧小澤家住宅に泊まろう」という平成二十四年から四回実施した事業についてご紹介します。近隣の四つの小学校（現在は一つの小学校に統合）の四年生二〇人を対象として、夏休み中に実施される一泊二日の宿泊体験です。

本事業の目的は、マンションやフローリング等にみられる現代の住宅事情にあって、子供達が日本家屋の特徴を知り、その魅力を感じてもらうことです。そして、体験を通じて、旧来普通にみられた日本の生活習慣ひいては、「日本文化」の一端を将来紹介できるように促して欲しいという願いが込められています。

この事業は、当館の職員のみでは行えません。二〇人の子供を見なければならぬことや、いろいろなプログラムが用意されていることから、多くの人の協力が必要となります。協力して下さるのは、中央公民館職員、地域コーディネーター、地域ボランティア、学生ボランティア、下本町商店会、千鳥湯（銭湯）、寄贈者の小澤さんといった方々です。各自が強みを活かして、役割分担をし、子供達が旧小澤家住宅で安全に楽しく過ごせるように目を配ります。

子供達が体験するプログラムのうち、特に盛り上がる活動は次の通りです。①

和風建築講義 ② 銭湯体験 ③ お膳での食事 ④ からくり人形実演見学 ⑤ 肝試し ⑥ 蚊帳の中での就寝 ⑦ 周辺散策。

①は、長岡造形大学の平山育男先生が講師となり、子供達と建物を巡りながら和風建築の特徴を学びます。②は、近所の銭湯へ行き、入浴します。初めて銭湯で入浴する子にはとても新鮮な体験です。③は、畳に座ってお膳の上のご飯とおかずをいただきます。お膳での食事が初めての子どもいます。④は越後大郷からくり人形館長の日根之和さんに、オリジナルのからくり人形を動かしてもらって見学します。⑤は、館内で学生ボランティアや地域ボランティアが通路の途中で怖がらせませす。先に行く子供の悲鳴に怖じ気づく子どもいますが、互いに励まし合いいたわりあいながら道を進みます。戻った際の子供達の表情は、達成感に満ち大人びて見えます。

携わるスタッフは、子供の人数以上に多いときもあり、皆さん毎夏が来るのを楽しみにしてくださっています。休館日の実施となるので職員にとってはハードな事業ですが、皆さんが情熱をもって参加してくださることで、職員も励みになります。

体験終了間近になると、子供達にも



からくり人形実演見学

大きな変化が見られます。前日にはぎこちなかった子供達の様子が、翌日には学校の垣根なく楽しそうに会話をしています。体験を通じて、子供達の充実した表情と成長を感じられる瞬間に立ち会えることが、この事業に携わった者にとって最高の喜びです。

こうした施設の特徴を活かし、多くの方々に支えられて実施する事業が、旧小澤家住宅の魅力を一層高めていると思います。

（わかさき あつろう 学芸員）

お酒ですか、ご飯ですか

新潟市歴史博物館 館長 小林 昌二

一寸疲れて夕刻に帰宅すると着替えを手伝う賢い細君が「お酒ですか、もうご飯になさいますか?」と聞く。私は、そんな言葉

を掛ける小津安二郎作品シーンなどを見慣れてきた世代です。爾来六十年余、この言葉と習俗について考えることはありませんでしたが、ようやく、歴史的に考えてみる機会に出会いました。

それは『日本書紀』大化三（六四七）年条にある淳足柵の名称を探ったことに始まります。越（高志）の淳足柵と、道奥は現仙台市の郡山遺跡が「双子の城柵」だとする今泉隆雄の説があります。私は、今泉の学説が未

解明のままにしていた城柵名にこだわって次の結論にたどりつきました。詳しくは拙稿「古代東北『双子の城柵』名称考」、『新潟史学』七四号で述べました。私は、郡山遺跡が「名取柵」と呼ばれていたと考え、二つの城柵名は、『日本書紀』の天孫降臨神話で記される神吾田鹿葦津姫（木花開耶姫）の一夜妊みの話の中で

登場する誓願（ウケヒ）の卜定田（ウラヘタ）が典拠だとしました。

その稲から、酒を醸（カモ）した「狭名田」（サナダ）と、飯を炊（カシ）いた「淳浪田」（ヌナタ）です。これから「名」と「淳」を柵名の第一文字目に採ったのです。二文字目には、これを預かる人の意味である「トリ」「タリ」を加え、各々の城柵の名称にしたのです。

この名称は神への誓願の供え物を預かる施設を意味する名称に相違ないと考えます。こうした誓願は研究史上では国造や伴造など地方豪族の服属儀礼とされてきました。

そして、この誓願の卜定田から思いあたりました。酒を第一に、飯を次とすることが「中臣壽詞文などにも然見えたり」と平田重胤が述べていると、飯田武郷が『日本書紀通釈』で紹介していたのです。古代の習俗をたどるうちに、映画のワンシーンに思いついたというわけです。これを契機にいろいろと考えてみたいと思います。

収蔵資料紹介

枝葉をかき集める道具

写真は当館所蔵の民具で、これまで名称・用途とも不明となっていた資料でした。形は代かき用いるエブリ、またはコマザラに似ているものの、歯が長く代かきに適すると思われません。

ところが、大変よく似た民具を先に閉幕した「第十三回むかしのくらし展」で展示しました。聖籠町民俗資料館から借用したハマガスヨセという資料です。写真の資料と全体の大きさ、歯を埋め込んだ頭の形、頭と柄の角度、歯の数と大きさなどがほぼ共通し、同一の用途であるかと考えられます。

蒲原の平野部に広がる市域では、薪や炭を入手できる山林を持つ集落は多くありません。このため、かつては周囲の自然環境から燃料を入手するために様々な工夫をこらしました。聖籠町では浜辺に流れ着いた枝や葉をハマガスと呼び、枝は調理や暖房の燃料として、葉は肥料として使ったそうです。ハマガスヨセは、広い砂浜に流れ寄せる無数の枝葉を効率的に集めるために工夫されたのでしょう。

新潟市域でも、浜辺に打ち上げられた木をヨロ木と呼び、燃料として用いました。『新潟市史』によれば、海岸部の村では秋から冬にかけて、このヨロ木を拾い集め、浜の波に來ないところに積み上げ、雨に打たせて塩気をとってから燃料にしたといえます（資料編一〇）。写真の資料

はおそらくは聖籠町に近い海岸部の集落で使われたものと推測されます。新潟市域ではヨロ木のほかに、稲作の副産物であるワラや、砂丘の植生である松林の松葉なども燃料にしました。地面に落ちた松葉を燃料にするには、大量に集める必要があります。これにはコマザラを使用しました。ハマガスヨセもコマザラを散在するものを一カ所に集めるという機能を持ちます。シンプルな機能ですが、光熱水配達の体制ができる以前において、身の回りの自然からくらしに必要な資料を採集する、とても大切な道具です。

（森 行人 学芸員）

